

広域資源培養管理推進事業* — 天然資源調査 —

阪本俊雄・渡辺勇二郎・武田保幸

目 的

内海の資源的に減少の大きい魚種で、漁業の改変により資源の回復と漁業経営の改善が期待されるものについて、考えられる管理因子をもとにシミュレーションを行い、その管理の効果を提示し、漁業者の自主的管理決定の便に供す。

資源はタチウオとハモを、漁業はこれを利用する底曳網と延縄をそれぞれ対象とする。隣接徳島県との共同調査で、本県はタチウオの取りまとめ評価担当を行う。

調査の項目・規模及び結果の概要

表1、表2に示すとおりである。

表1 タチウオ調査項目・調査規模・結果の概要

調査項目	調 査 規 模	結果の概要
漁船用調査	箕島町漁協小型船底曳網 (13.49t) 3隻×10回 (S63.7～H1.3) 13,9,8,6節網 平行式操業 2回。6,7,8,9節網に13節被い網式7回、延べ 105回実施。 漁獲物は全数測定、タチウオ117,115尾、他の 魚介18,644尾。	現行の魚捕部13節を8節に することが妥当である。
標本船調査	箕島町漁協小型船底曳網 (13.49t) S48年以降、 2隻分有り。S63年以降3隻。販売銘柄別金額 記入は、S63年8月以降 (以前からの2隻につ いては、S63年5月以降)	継続実施中。
漁協市場調査	箕島町漁協の漁業種類別月別漁獲量、漁獲金額、 単価についてS55-62年の整理を行う。	継続実施中。
生態調査	既往調査研究知見と上記用船ならびに標本漁船 の調査資料の整理を行う。	必要な漁業生物知見はほとん ど整う。
モデルの 検討と改変	調査会社に委託。	入力プログラムほぼ完成。 K A F S 改変中。

* 水産業振興費による

表2 ハモ調査項目・調査規模・結果の概要

調査項目	調査規模	結果の概要
標本船調査	大崎漁協小型機船底曳網船1隻。S63年7月以降、 雑賀崎漁協小型機船底曳網船2隻。S63年7月以降 いずれも金額入りはS63年9月から。	継続実施中。
漁協市場調査	大崎漁協の漁業種類別魚種別月別漁獲量S57年以降 雑賀崎漁協の漁業種類別魚種別月別漁獲量S44年以降 雑賀崎漁協の共同出荷主要魚種漁獲量、金額S63年 8月以降。 戸坂漁協の延縄漁獲量	継続実施中。
生態調査	S63年6-10月にハモを305尾精密測定。	取りまとめ中。
モデルの 検討と改変	調査会社に委託。	入力プログラムほぼ完成。 K A F S改変中。

タチウオについては、漁業生物情報は既往調査によりほぼ整っており、これより考えられる漁業改変の方向は網目拡大による資源の合理的利用である。従って本調査では底曳網の本種に対する選択性調査に重点をおいて試験操業を行った。また、これには同時に網目拡大による漁業改変実践の先達的役割を果たすことにも留意した。いずれの調査においてもまとまった情報知見をうるには来年度の継続に待たねばならないが、試験操業からは、現状のコッドエンド13節を7、8節に拡大することが妥当と考えられた。来年度調査結果を待って網目拡大による資源、漁業経済の評価を行う。本年度調査の子細は「昭和63年度広域資源培養管理推進事業報告書、和歌山県、平成元年3月」に記した。